

トマトのかいよう病菌検査

かいよう病

病原 *Clavibacter michiganensis* (細菌)

感染 土壌伝染、汁液伝染、種子伝染

症状 葉が萎れ、淡褐色の脱水斑、黄化や巻き上がりが発生する。進行すると株全体が萎れて枯死する。茎は導管が薄く褐変、空洞化する。

果実表面に、白色に縁取られた2～3mmの鳥の目状の斑点を形成することがある。

主な作物 トマト、ミニトマト



茎導管の薄い褐変



果実表面の鳥目斑点



葉の脱水斑 巻き上がり



葉の脱水斑巻き上がり 萎凋

このような場合におすすめです！

- 作物に上記症状がみられる
- 症状が隣接株に広がっている
- 過去にかいよう病が発生した
- かいよう病かどうか明らかにしたい

検体の送付方法 常温便(夏季高温期はクール便)

かいよう病菌 感染検査のみ

- 地上部全体
症状がみられる植物体の地上部を袋に入れ密閉する。なお、地際の茎を切断する際は、清潔な刃物を使用し、切り口は十分湿らせたティッシュで包む。

かいよう病菌 以外の病害も診断する場合

- 根を含む株全体
土壌が茎葉部に付着しないよう、根を湿らせた紙で包んでビニール袋に入れ、更に株全体をビニール袋に入れ密閉する。具体的な手順は、「病害虫診断 検体の送付方法」をご参照ください。



検査の方法

【イムノクロマト法】
イムノクロマト検査キットを使用して検査します。



報告書

- かいよう病菌の感染を検査したうえで、最適な対応策をご提案します。
- 検体の受領から結果のご報告まで、7～10日程度かかります。



注意事項

乾燥・枯死した検体は、検査できません。

